

# 新岡垣風土記

—連載終了に寄せて—

先月、惜しまれながら連載の最終回を迎えた「新岡垣風土記」。昭和 60 年から「広報おかがき」で、岡垣町の歴史をさまざまな角度から紹介し、多くの人に親しまれてきました。そんな「新岡垣風土記」の歴史を振り返るとともに、近年執筆を行っていた 3 人に、連載を終えた今の気持ちを聞きました。

## 40 年近くの執筆活動を終えて

入江東樹

執筆するには、まずどんなことを書くかを決めなければいけません。その後、参考文献や史料を読んだり、取材をしたり、自分の体験をまとめたりするほか、写真や地図をどう使うかなど、多くのことを検討する必要があります。大変な作業だったと感じています。

自分の文章が岡垣の歴史を理解するのに役立っただろうかと思うこともありましたが、うれしかったこともあります。学校の歴史を紹介する文章を書いた時、ある学校で玄関の掲示板に紹介文を全部貼っていただいたのは思い出の 1 つです。

2012 年は、岡垣町制 50 周年記念の年であり、私たち執筆者で「何か記念になるものは」と思い、それまでの「新岡垣風土記」327 回分を冊子にした収録版を作成しました。それ以降から最終号(463 回)までの連載をまとめて、冊子として残せたらいいなと思っています。

終わりに、「新岡垣風土記」欄を担当していただいた職員の皆さん、取材や史料提供に応じていただいた皆さんに、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 町民の皆さまに感謝

羽山健一

「新岡垣風土記」の読者の皆さま、長い間お読みいただき、ありがとうございました。私たち執筆者は後期高齢者で、健康問題が顕著となる中、今が引き際と判断し、連載終了を決めました。

町民の皆さまには、昭和 60 年から現在に至る 38 年余りの間、執筆に必要な史料の閲覧や現地案内、聞き取り調査などでご協力を賜りました。また、岡垣町教育委員会生涯学習課ならびに広報担当職員の皆さまには、多大なご支援をいただきました。ここに、深く感謝申し上げます。

町民の皆さま、長年のご声援ありがとうございました。

## 有意義な時間だった執筆活動

石田健次

私が前任者から引き継いで「新岡垣風土記」を担当することになった時には、連載は既に 380 回を数えていました。そのため、未掲載のテーマを探して執筆することとしました。

原稿を書くにあたっては、根拠となる史料が必須ですが、目的のものがなかなか見つからないことも多くありました。しかし、苦勞して入手した史料によって新しい事実が見つかるということもありましたので、その苦勞も今では良い思い出になり、大変有意義な時間を過ごすことができました。

原稿執筆の際にご協力いただいた皆さまと、原稿の校正にあたって無理なお願いをしたにも関わらず、快く対応していただいた広報担当職員の皆さまにお礼を申し上げます。



「新岡垣風土記」執筆者  
いりえはるき  
入江東樹さん



はやまけんいち  
羽山健一さん



いしだけんじ  
石田健次さん

## 新岡垣風土記の歴史

「新岡垣風土記」は昭和 60(1985)年の「広報おかがき 7月号」で連載を終了した長畑武さんの「岡垣小史」を引き継ぎ、翌月の8月号から連載が始まりました。当初執筆を担当したのは、岡垣歴史文化研究会の石井邦一さん、入江東樹さん、羽山健一さんの3名です。その後、新たに戸次拓治さん、田和昭壽さんのほか、町職員も執筆に加わりながら連載を続け、383回目からは、入江東樹さん、羽山健一さん、石田健次さんの3名で連載を行ってきました。

「新岡垣風土記」というタイトルは、和銅6(713)年、元明天皇が諸国に命じて郡や郷の名前の由来や地形、産物、伝記などを書かせた『風土記』にちなんだものです。連載は「岡垣町の歴史と伝承・民俗のなかで、これまであまり知られていない領域を掘り起こすことによって、町民の皆さんが郷土岡垣に対する関心と興味を深めることができるよう、史実と聞き取り、調査などを中心に執筆する」という方針の下に続けられ、古代～近代にかけて多岐にわたるジャンルが取り上げられました。

町制施行 50周年にあたる平成 24(2012)年には、これまでの連載(327回分)を一冊にまとめた「収録版」が出版されました。「収録版」は、岡垣サンリーアイの図書館で閲覧することができます。

連載開始以降、38年余りの間、一度も休載することなく執筆活動を続けられていましたが、筆者の皆さまのご意向により、令和 6(2024)年の「広報おかがき 4月号(463回目)」をもって、連載を終了しました。



▲第1回目の新岡垣風土記



▲町制施行50周年の記念に出版された「新岡垣風土記」

## 長年の連載に、尊敬と感謝の気持ちを込めて



岡垣町長 門司晋

「新岡垣風土記」が終了すると聞き、非常に名残り惜しい気持ちでいっぱいです。入江さん、羽山さん、石田さんを始め、これまで連載を支えてくださった執筆者の皆さまに、厚くお礼を申し上げます。「新岡垣風土記」からは、町の歴史を通じて、普段の暮らしの中では気が付かない町の魅力をたくさん教えていただきました。また、「広報おかがき」が、「行政からのお知らせ」だけでなく、1冊の「読み物」として住民の皆さまに手に取っていただけるきっかけになっていたことと思います。

執筆者の皆さんは毎回各自でテーマを検討し、史料を揃えて執筆されていたということで、大変なご苦労があったことと拝察され、これまで休載することなく掲載を続けてこられたことは、尊敬の念に堪えません。

連載は終わりますが、岡垣サンリーアイに新しくオープンした岡垣歴史ギャラリーで企画展を催したり、広報紙で町の歴史を取り上げたりすることがあれば、またお力をお貸しいただければ、うれしく思います。

長い間広報おかがきに寄稿いただき、本当にありがとうございました。